

生産情報

農業振興課主任 齊藤 大貴



りんごの果実肥大状況

5月31日の調査では、ふじの肥大が管内平均で13.6ミリとなり、昨年よりも10ミリ程小さく推移しています（平年比…75.6%）。6月10日現在の状況は表1参照。

表1：管内の品種別りんご肥大状況（6月11日調査）

品 種	横径（単位：ミリ）					
	湯 口	紙漉沢	相 馬	平 均	昨 年	平 年
ふ じ	28.2	23.4	24.8	25.4	33.8	27.8
王 林	29.1	23.6	27.2	26.6	34.9	29.7
つがる	29.6	24.8	26.9	27.1	34.8	29.8

※平年値は過去10年間平均値

今後のりんご作業

（6月15日～7月15日）

●見直し摘果

花芽形成前の6月末を目標に見直し摘果を進め、適正着果に努めましょう。特に、ふじの場合は過着果にすると隔年結果を起こしやすいので、成らせ過ぎないように十分注意して下さい。

●追肥は今月末まで

追肥を計画している園地では、樹勢や着果量に合わせて、6月末までに実施しましょう。

●徒長枝（バヤ）整理

徒長枝整理は薬剤の通りを良くし、葉や果実を病害虫から守ることに繋がります。徒長枝が混み合うとハダニ類のすみかにもなるため、不要な徒長枝は剪去しましょう。

袋かけは7月10日頃をめどに

袋かけは早いほど着色向上の効果が高くなります。そのため、遅くとも7月10日頃をめどに袋かけを終了し、被袋期間を75日以上確保しましょう。また、袋かけ前の

薬剤散布は丁寧に行い、散布後5日以上経過してから袋をかける場合は、実洗いを行いましょう。

注意すべき病害虫について

●腐らん病

発生が見られています。見つけ次第速やかに処置して下さい。

●輪紋病

伝染源は枝幹部に形成されたいぼ皮病斑です。新梢及び1年枝での感染は6月上旬～8月中旬頃まで続き、7月に最も多くなります。

●シンクイムシ類

異常高温下では、薬剤防除だけで被害を抑えることが非常に困難となります。コンフューザーRをまだ設置していないところでは設置を急ぎましょう。また、果実への侵入を防ぐため、今後の防除が重要です。7月初めにピレスロイド剤を使用して下さい。

水稻について

移植後の水管理は、天候の良い日は2～3cmの浅水にし、分けつを促進して下さい。低温が続く時は5～6cmのやや深水にして稲を低温から守りましょう。

入水は夕方または早朝に行い、

日中は田んぼの水をしつかり暖めましょう。また、入水の際は除草剤の処理層が壊れないよう静かに入水を行って下さい。

●りんご病害虫防除暦（第7回目～第8回目）

回数	散布量	散布時期	基準薬剤	希釈倍数	備 考
7	500㍓	7月上旬	オキシラン（水） サイハロン（水） ウララ（DF） カルシウム剤	500倍 2000倍 4000倍	○輪紋病の重要防除時期となるので、有効な薬剤を降雨前に散布してください。
8	500㍓	7月中旬	キノンドー（顆水） オンリーワン（F） トランスフォーム（F） カルシウム剤	1000倍 2000倍 4000倍	○褐斑病対策としてオンリーワン（F）2000倍を加用してください。

果実販売動向

販売課 田村 慎平



平素よりJA相馬村フルーツテーションをご利用いただき、誠にありがとうございます。5月の果実販売の動向についてお知らせいたします。

イチゴに関しては、最後の4番果が終盤に差し掛かり、入荷量の減少と品質の低下が進んだため、引き合いは落ち着き、価格は弱含みでの展開となりました。しかし、量販店では依然として売り場のメインとして扱われているところもあり、一部の市場では価格が保含いから強含みで推移している状況も見受けられました。

スイカに関しては、熊本県産が生育の遅れにより月初めの入荷量が増えず、ゴールデンウィーク前であったため強い需要があり、高値で推移しました。月の中頃から熊本県産の入荷量が増加し、さらに千葉県産も入荷が始まったため、全体の量は増加しました。売り場の拡大は見られましたが、消費地では曇りの日や気温が上がらない日が続いたため、想定よりも売り場は広がらず、それまでの高値傾向も影響し、中旬以降の価格

は弱含みで推移しました。

メロンについては、スイカと同様に月初めまでは生育の遅れにより全体の量が少なく高値で推移していましたが、中旬以降に全体の量が増加したことで、それまでの高い売価設定の反動から弱含みでの展開となりました。すいかと比較しても高値であったため、末端ではカット売り中心の売り場が見られました。

リンゴについては、末端で冷蔵ケースへの切り替えが進み、市場では業者関係がサンふじ、系統関係が有袋ふじ中心の入荷となりましたが、各売り場でサンふじの在庫が抱えられており、品質低下が懸念されたため、サンふじの販売が優先され、有袋ふじの引き合いは限定的となりました。そのため、有袋ふじの価格は下げ基調で推移しています。ジョナ系についてもサンジョナの在庫を売り切ったから有袋ジョナへの移行が進みましたが、サンふじに比べてサンジョナの在庫整理は早く進み、月の中頃からは有袋ジョナの販売が本格化しました。りんご全体の売り場

が狭い状況から、荷動きは緩慢な状況が続いています。

今後の展開ですが、スイカは各産地での出荷が本格化し、全体の供給量が安定する見込みで、売り場の拡大が期待されています。

5月中の流通在庫も多く残っています。消費地での気温上昇に伴い需要が高まることが予想されるため、価格は横ばいで推移する見込みです。

メロンについても入荷量の増加が見込まれますが、スイカよりも高値で流通在庫が多いため、売価が下がるまでには時間がかかると考えられ、厳しい販売状況が予想されます。

リンゴについては、末端でも概ね有袋ふじに切り替わるものの、上位等級品や大玉果に関しては売価の観点から企画が少なく、下位等級品や小玉果については競合するNZ産ジャズなどが本格化する見込みで、どちらも荷動きが鈍い状況が予想されます。NZ産の入荷量が昨年の1.5〜2倍になると見込まれている市場もあり、例年袋詰めが必要であった小玉果についても厳しい販売となる可能性がありますが、品質低下に注意しつつ有利な販売を目指してまいります。

全農あおもりデータ（5／31 累計）

品 種	王 林	シナゴールド	サンジョナ	有袋ジョナ	サンふじ	有袋ふじ	その他	合 計
単 価 (円)	4,083	4,301	4,385	4,603	4,519	5,529	3,827	4,202
前 年 比 (%)	100	97	102	95	116	99	100	107
販売数量 (箱)	570,300	161,509	315,980	113,858	3,552,164	243,327	2,269,117	7,226,283
前 年 比 (%)	101	103	136	100	90	110	108	99